

ツールを用いた効率的なソフトウェアの脆弱性対策を解説した資料を公開

～システム管理者の脆弱性対策の作業工数の低減を可能に～

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：富田 達夫）は、オープンソースソフトウェアの“Vuls”（バルス）⁽¹⁾を用いた脆弱性対策の手順などについて解説した「脆弱性対策の効果的な進め方（ツール活用編）」（以後、ツール活用編）を公開しました。

URL：<https://www.ipa.go.jp/security/technicalwatch/20190221.html>

組織のシステム管理者は、自組織で使用しているソフトウェアを常に最新の状態に維持するため、脆弱性対策情報の収集、適用の是非を判断するなどの実務を行う必要があります。

IPAが運用している日本語版「脆弱性対策情報データベース JVN iPedia⁽²⁾」には、2018年12月末時点で累計92,674件の脆弱性対策情報の登録があります⁽³⁾。また、JVN iPediaには毎月新規に1,100件超⁽⁴⁾が登録されています。

よって、組織のシステム管理者は、こうした膨大な脆弱性対策情報から必要な情報だけを抽出し、例えば下図の様なフローで効率のよい作業を行うことが求められます。

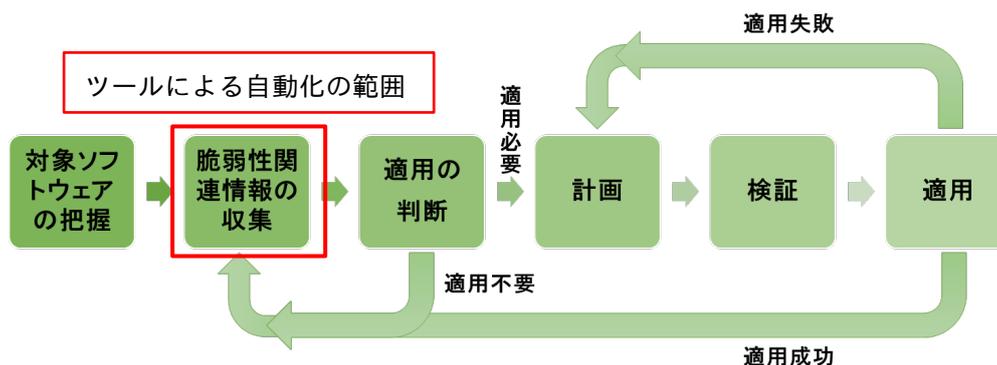


図1：脆弱性対策の作業フロー

そこで、主に脆弱性対策情報を手動で収集しているシステム管理者を想定し、“ツール活用編”を作成、公開しました。この中で、脆弱性対策の作業フローと“Vuls”のインストール、情報収集の方法などについて解説しています。なお収集の対象は自組織で管理している Unix 系サーバー⁽⁵⁾のソフトウェアです。IPAの検証環境では、約370種のソフトウェアがインストールされている Linux サーバーに対して、Vuls のスキャンモードの1つである「fast-scan⁽⁶⁾」を実行しました。その結果、脆弱性対策情報の有無の抽出を数分で行えました。

⁽¹⁾ <https://vuls.io/> Github への Vuls の公開は 2016 年 4 月 1 日。Vuls は MyJVN API と関連付けられており、NVD (National Vulnerability Database)、JVN iPedia の 2 種のデータベースから情報を取得している。

⁽²⁾ <https://jvndb.jvn.jp/>

⁽³⁾ JVN iPedia には英語版もあり、英語版の累計登録件数は 1997 件。

⁽⁴⁾ 2018 年 10 月-2018 年 12 月の登録件数は 3560 件、7 月-9 月：3834 件。

⁽⁵⁾ “Vuls” が対応している OS は Ubuntu、Debian、CentOS、Amazon Linux、RHEL。

⁽⁶⁾ “Vuls” が提供するスキャンモードには 4 種類ある。モードの指定をしなければ「fast-scan」が実行される。

<https://vuls.io/docs/en/architecture-fast-deep.html>

また、“ツール活用編”に合わせてセキュリティ対策初心者向けに「脆弱性対策の効果的な進め方（実践編）第2版」も公開しました。

ソフトウェアの脆弱性対策が、システム管理者の作業負担を抑えながら、効率的に実践されることで、組織のセキュリティ対策強化につながることをIPAは期待しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 渡邊（祥）／大友

Tel: 03-5978-7527 Fax: 03-5978-7552 E-mail: isec-jvndb@ipa.go.jp

■ 報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部 広報戦略グループ 白石

Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp